

絶滅危惧種

昭和の少年



酒井 克 (さかい かつ) 昭和の少年が綴る いきいきライフスタイル

一九四六年、埼玉県比企郡吉見町の農村で九人兄妹の末っ子として生まれた著者は、自分らの世代を「三十年後には日本から消える」運命の「絶滅危惧種」だと語る。

当時の農村生活や子どもたちの遊戯、進学への葛藤、名物理科先生としておこなったユニーク授業や指導方針、定年後の生活をどう楽しむか、等々、少年の心を持って昭和平成をたくましく生き抜いてきた一人の「昭和の少年」の生き様を後世に伝えるライフエッセイ。

定年を迎えた世代をはじめ、これから学問を志す世代に向け、この本で何を学ぶかが問われる。



定価(本体 1500 円+税)
四六判・並製本・本文275頁
ISBN 978-4-89623-114-4

エッセイ

◎本書目次

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 少年時代 (幼年期) | 5. 少年時代 (中学生時代) |
| 2. 少年時代 (小学校低学年) | 6. 少年時代 (高校・大学生時代) |
| 3. 少年時代 (小学校中学年) | 7. 少年時代 (教え子は少年) |
| 4. 少年時代 (小学校高学年) | 8. 少年時代 (孫は少年) |

著者が定める“昭和の少年”定義

- 1 年齢にかかわらず“少年の心”を持ち続けていること
- 2 田舎で生まれ、田舎で育ち、幼稚園や保育園には行かず、朝から晩まで野山で遊び続けた少年であること
- 3 遊びに出かける時は必ず“かくし”(ポケット)に肥後守(ひごのかみ)という“折りたたみ式ナイフ”を入れて遊んだ少年であること
- 4 ランニングシャツ(あるいは上半身裸)にダブダブの半ズボン、麦わら帽子をかぶった少年(パカボンのお父さんの感じ)であること
- 5 エビガニや魚釣りの竿、またはクモの巣で作ったセミ取りの篠を担いだ少年であること



魅力ある「山王焼」の作品集を
巻末図録に40頁分掲載

キリトリ

<版元> まつやま書房 埼玉県東松山市松葉町3-2-5 tel.0493-22-4162 Fax.0493-22-4460

注文書	帖合	絶滅 危惧種	昭和の少年 酒井 克	冊
		定価(本体 1500 円+税) ISBN 978-4-89623-114-4		
	ご氏名・住所など			



※切り取って最寄りの書店にお問い合わせ下さい。ご不明な点がございましたらまつやま書房までご連絡を。